

NPO 法人オアシスの皆様へ

## 令和5年新年に寄せて—「人生に拍手を」の先に

明けましておめでとうございます。本年も皆様方との協働・共創でオアシスの活動づくりに努めたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

謹賀新年 1月22日に主催する社会活動交流会のメインテーマとして「人生に拍手を」を掲げた。「終活としての人生か？」はたまた「就活としての人生」か。私こと、喜寿世代であればこそ後者を選択。へそ曲がり人生6合目あたりかな～あ。・・・「よく言うわ～あ」です。《後略》

私こと、旧年追憶の賀状の一節であります。「就活」の思いを持ちつつ、より豊かな人生への挑戦を意識しようと自らを鼓舞した言葉でもあります。

### 【感情の惨禍も喉元過ぎれば空絵ごとか】

コロナ禍、故人の葬送さえも拒まれた近親者の無念、言われえぬ悲しさ。また、専制独裁国家の反対派勢力弾圧や他国への領土侵攻いくあまた。それらの中、逃げ惑う避難民の恐怖と不安に歪む顔などなど、世界平和の呼び声むなしく、多くのメディアは、人々の感情の惨禍を垂れ流し続けて止まない。

しかし、このような地獄絵も日を重ねるほどに感情の希釈が進み空絵ごとに成り下がっていく。例えば、ロシアのウクライナ侵攻に伴う避難民最大の受け入れ国ポーランドにおいても、受け入れ当初と比べて20分の1以下の支援規模に落ち込んでいるとか。私たち日本人が言えた義理ではないが、避難民の不安を再生産してしまっている現状も今増えている。

悲しいかな、見逃せない現実である。

### 【年越しの思いを吉凶につなぐ】

地元神社の役員を受けて4年連続の拝殿での年越し。老いの身には、寒さと徹夜は辛い。特に去年は、小雪交じりの強風下で耐えがたく時間の経過を急かした記憶が。転じて本年は暖かく、眠気も気にならず穏やかな気持ちで勤め上げた。

ここ4年の年越しを吉凶感覚として振り返るなら、凶⇒凶⇒大凶ときて本年「吉」に転じたと言ってもよい。振り返って2020年はコロナ感染の爆発の年、次年はさらなる感染拡大へ、そして、去年はロシアのウクライナ侵攻が加わり最悪の一年、大凶の年。

本年の吉兆の予感に期待を高める、2023年元旦。

### 【SDGs17パートナーシップを育む活動で目標達成をめざす】

昨年11月に開催した「オアシス応援地球志民学校」では、外国籍の青年29人を含む計56人の地球志民が参集、それぞれの思いや、生き方の共有に向けての第一歩を拓いた。その中での核心は、個々の多様性を受け止め、それぞれの『志』に対し、ささやかではあるものの応援の心を届けることであった。評価はそれぞれ異なるであろうが、お互いの『志』を交換、共有し合い高め合う熱を感じた。やがて、そのぬくもりは、私の心を豊かにし期待へと昇華してきている。

そのぬくもりの中に、オアシスの皆さんの叡智・経験と技術・技能の凄さと巧みさを感じながら。

特定非営利活動法人オアシス理事長 足立泰敏